7. 考察と今後の展開

平成 23-25 年度までの成果を基盤にして、今後は以下の実用化に向けた取り組みを加速的に推進する。

- 特許戦略： 米国、EU ならびにインド、韓国などの特許の審査が有るので対応する。産学連携を加速するために、本特許の九州大学の権利を連携企業に譲渡する手続きを進める。
- 治験薬 GMP 製造：製剤の安定性試験を継続して進める。また、製剤の最適化（高封入率化、ロット単位の量の安定化、粒径の安定化など）も進める。
- 非臨床試験の成果に基づく「対面助言」：平成 26 年度に終了する静脈内投与に関する「第一相単回静注試験」と「第一相反復静注試験」の成果を基盤にして、平成 27 年度以降に冠動脈内投与に関する非臨床試験を実施する。
- 九州大学病院橋渡し研究拠点（ARO 次世代医療センター）における第二相試験の実施：上記の静脈内投与に関する第一相試験と冠動脈内投与に関する非臨床試験の成果を基盤にして、平成 27 年度以降に冠動脈内投与に関する第二相試験を計画する。臨床試験の計画を加速するために、「医工連携事業化推進事業」実証推進事業（経済産業省）に応募している。